



News Letter ☆ PIANC-Japan

国際航路協会 日本部会ニュース

July 2013 (Vol.13-2) The World Association for Waterborne Transport Infrastructure

1. 国際航路協会年次総会（マルセイユ AGA）及び Mediterranean Days 出席報告

PIANC-Japan 事務局長
柳 生 忠 彦

国際航路協会 年次総会（マルセイユ AGA）及び Mediterranean Days が 2013 年 5 月 21 日から 24 日まで、マルセイユ（フランス）海岸に面する Radisson Blue HOTEL（総会）と Le Palais du Pharo（ナポレオン III 世の旧別荘）で開催され、出席しましたのでその報告をします。



総会会場のホテル



Mediterranean Days の会場

1. 出席者

日本からは、国際航路協会の須野原副会長と奥さま、国土交通省九州地方整備局・山本副局長、国土交通省港湾局産業港湾課国際企画室・中川国際調整官、農林水産省水産庁漁港漁場整備部整備課・西崎課長補佐、PIANC-Japan 川嶋前会長と奥さま住友ゴム工業㈱に出向中の森さま、De Paepe-Willems 賞受賞の松下（日建工学（株））さま、部長の滝さま、社長の行本さま並びに小職の 12 名が参加しました。



Le Palais du Pharo での晚餐会での出席者



総会会場と開会の挨拶をする会長

2. 総会等の概要

1) 執行委員会 (ExCom)

22日にはExComが開催された。総会で取り上げられる内容について、議論がされた。特に注目すべき点は次の2点であった。

- ① 現在4名の副総裁を5~6名に増員する提案については慎重な議論が必要である。
- ② 退任したインド出身の副会長の後任の首席代表(ムルガナンダム氏)が新たに設けられたアドバイザーという役職に就任した。

2) 総会 (AGA)

21日の9時から17時30分まで総会が開催されました。会議の概要は下記の通りです。

総会に先立ち先に逝去されました御巫元PIANC副会長に黙とうをささげました。

・会長からの全般報告

・Mr.Srivastava(インド)副会長の途中退任の後任にMr.Tore Lundestad(ノルウェー)が選ばれた。

・PIANCにAdviserを設ける規定変更をする。

・各委員会委員長の活動概要の報告があった。

- ・多くのWG報告書が発刊された。
- ・日本の東日本大震災に関する報告を独立した報告書として発刊する。
- ・Colombiaにおいてアメリカなどの支援によって会議が開催された。
- ・Target Countriesとして、南アメリカ、アジア(フィリピン、インドネシア、ベトナムなど)を対象に活動する。

・事務局長からの報告

・ブラジル、トルコが初参加した。IAPHなどからも出席いただいている。

・2月には事務局長会議を開催した。

・PIANC-COPEDEC in Brazil 2016に対するスポンサーとしての協力をお願いしたい。

・9月にはマーストリヒト(オランダ)でSmart Riverが開催される。同時にCouncilも開催する。

・Yearbook 2012を発刊した。

・多くのWGレポートが発刊されている。非会員への販売などで2012年は€12,000の売り上げがあり、今年も現在までに€5,000を売り上げている。

・会費納入状況並びに納入の促進について報告された。

・各国の活動に関し、アルゼンチン、コロンビアは会員増、オーストラリアやイランも活動が活発になってきている。トルコが新しくQualified Member(QM)になった他ラオス、イスラエル、ウルグアイも近くQMとなる。

・各地域において関連の多くの関連国際会議が開催されている。

・財務委員会委員長からの報告

・2012年はセミナー等の収入がなく、収入は€40,000の減、支出はYearbookが重く輸送量が高く全体で€5,000増となった。そのため黒字は€26,000(予算では€70,000)

・投資については収益率が 2.3%となった。
・2015 年には事務総長を常勤化する予定でありそのための支出が増える見込みである。

・メンバーが減っているため財政的に苦しくなる。何かの収入源を探す必要がある。

・監査報告

・監査会社の監査の結果経理は適切であるとの報告がなされた。

・委員会報告

・InCom 報告；16 人の委員で活動している。会議を 2 回、現場視察を 2 回実施した。

・MarCom 報告；コロンビアと韓国からの新委員が入り全体で 28 人の委員で活動している。9 月に仙台で委員会、東京で講演会を開催する。

・EnviCom 報告；オーストリア、ノルウェーが新しく委員となり、全体で 30 人、9 団体で委員会を構成している。2 月から Working with Nature (WwN) の活動情報は web site にアップしている。ライン川（ドイツ）とルアーブル港（フランス）が WwN プロジェクトに選定された。今年の締切は 2013 年 9 月である。

・CoCom 報告；22 人の委員（内 8 人が途上国）で構成している。COPEDEC への支援を推進する。

・RecCom 報告；最優秀マリーナ賞 (Marina Excellent Design Award) を選定した。マリーナの計画等に対して技術支援をすることにした。

・YPCOM 報告；中国から新しく委員が出された。トルコ、ブラジルも委員を出す予定。アジア（インド、中国など）での活動を活発化させる。

・副会長の選任

・TRUEBA（スペイン）副会長の任期終

了に伴う新副会長に Ms.Milou Wolters（オランダ）が選任された。

・Resolution 2013 の採択

・今後の予定

・33 回 Congress は 2014 年 6 月 1 日から 5 日の間サンフランシスコで開催される。

・AGA 2015 はポルトガルで開催する。

・PIANC-COPEDEC 2016 年がブラジルで開催される。

・提携団体のプレゼンテーション

・IAPH 前会長からのプレゼン

・ICOMAS (International Council of Marina Industry Association) からのプレゼン。

・Best Performance National Section の決定

・選定委員会において、スペインを選定した（立候補は他に無かった）。スペインは 100 人の YP が会員となっている。

・最優秀マリーナ賞の決定

・Marina Excellent Design Award は南イタリアの Rodi Garganico マリーナが受賞者となった。

・De Paepe-Willems Award の決定

・15 の候補論文の中から、松下紘資氏（日建工学（株））の論文「巨大津波に対する防波堤補強工法」(Breakwater Reinforcement Method against Large Tsunami) が日本から初めての受賞論文として選ばれた。

・受賞後、松下さんは 40 分間にわたり、東日本津波や実験ビデオも使いながら、興味深い論文の発表を行った。



賞金の小切手を手にした松下さん



セミナーの様様



受賞論文の発表をする松下さん

・特別講演

次の2つの特別講演が行われた。

- ▶ Climate Change、Coastal Change and Navigation Issue (Dr. Nicholls)
- ▶ The Past, Present and Future of Gyeongin Ara Waterway (Dr. Kim Tae-Ming)

3) Mediterranean Days セミナー

22日から24日までは約150名が参加し、AGA と同時開催の3回目の Mediterranean Days のセミナーと港湾視察が開催されました。

セミナーは次の4つのテーマに分けて行われました。

- ① Port Policies
- ② Port Infrastructure and Traffic
- ③ Environment, Cruise, Boating and Port-city
- ④ Prospective Views

全体で30の報告がありました。

第2回(バレンシア)の時とは異なり、印刷物やCDの用意もなく、発表者がパワーポイントを使って発表する形式でした。しかも、英語の同時通訳はあるものの、スクリーンに映される図表等も含め全てフランス語であるため、理解するのが容易ではありませんでした。また、発表の多くは民間コンサルタント、建設会社を中心で、発注者と共同で発表するという形式が多くみられました。ただし、会議終了1週間後には、英語版も含めレポートの詳細をホームページから入手することが出来ました。

港湾視察

セミナーの一環としてマルセイユ港とフォス港の視察プログラム(7時間)がありました。

マルセイユ港の歴史は古く、2600年前に現

在はマリーナとなっている入り江に開かれた。現在の港湾のレイアウトを下記のGoogle Mapに示す。マルセイユ港は南北に約8kmに亘って建設された防波堤の背後に係留施設が広がっている。水域が狭いため操船が難しく、2013年1月には大型フェリーの事故が発生した。このようなこともあり、港口部の防波堤の一部50mを撤去する計画が検討されている。泊地の水深は11～12mで、入港できる船舶の全長は180mに制限されている。マルセイユ港には主として大型フェリーや大型客船が入港していて、年間約100万人の旅客を扱っている他、フォス港も含めて取扱われるコンテナ（2012年で約100万TEU）の約1割を扱っている。マルセイユ港は狭くて、将来の発展に対応できないため、1963年にはマルセイ

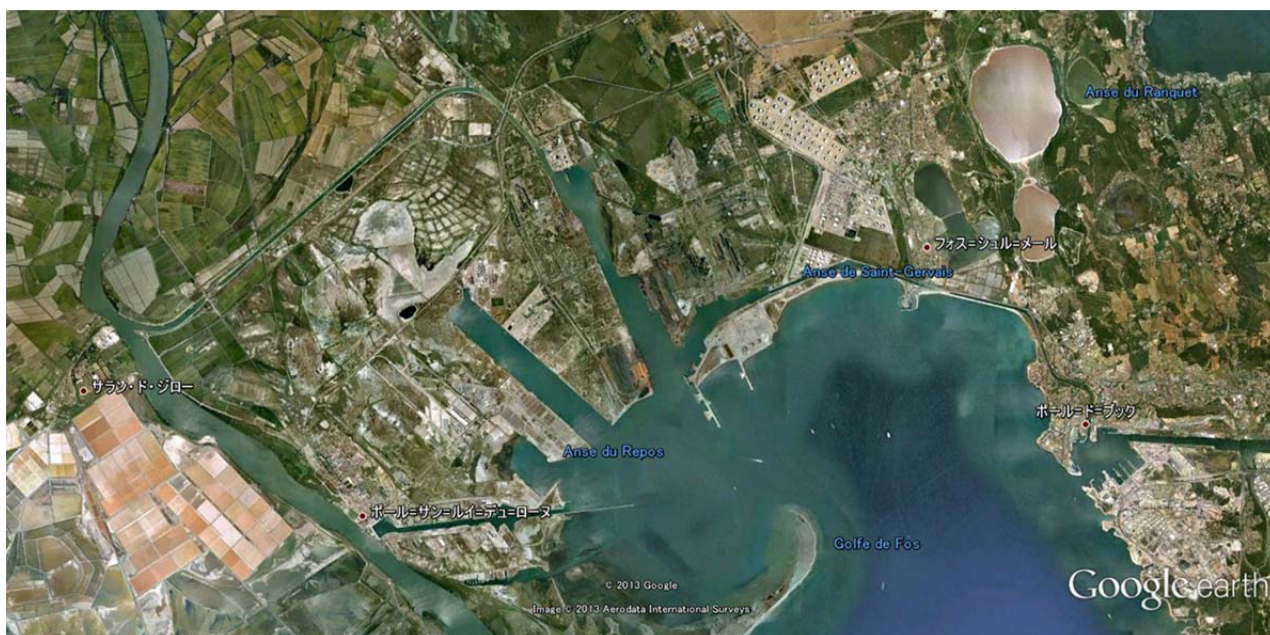


マルセイユ港内の航路を横断する跳ね橋

ユ港から西方約50kmに位置する約9,000ha（開発区域は約60%、環境保護地域は約40%）の用地において、製鉄、石油精製、流通センター、コンテナの取扱を開発する港湾の開発に着手した。



マルセイユ港(商港)のレイアウト



フォス港(工業港)のレイアウト

両港を合わせた 2012 年における港湾貨物取扱量は下記の様であった。

- ・ 雑貨；1,720 万トン
- ・ 石油類；5,270 万トン
- ・ 化学薬品類；350 万トン
- ・ 固形バラ荷；1,230 万トン
- ・ 旅客；240 万人
- ・ コンテナ；100 万 TEU



遠く山の上にノートルダム（守護聖人）
教会を望むマリーナ(旧港)と町並み

2. 第44回理事会、第40回総会、25年度報告会が開催されました。

事務局

2013年6月21日(金)、東海大学校友会館において第44回理事会、第40回総会、25年度報告会並びに懇親会が開催されました。

資料はPIANC-Japan ホームページ (www.pianc-jp.org) に添付しています。

審議事項及び報告会は次の通りです。なお、審議事項はすべて原案通り承認されました。

1. 理事会

- 1) 第1号議案 平成24年度会務報告並びに決算報告
- 2) 第2号議案 平成25年度事業計画並びに収支予算
- 3) 第3号議案 企画委員会の構成
- 4) 第4号議案 De Paepe-Willems 賞受賞若手技術者の会費の特例

2. 総会

- 1) 第1号議案 平成24年度会務報告並びに決算報告
- 2) 第2号議案 平成25年度事業計画並びに収支予算
- 3) 第3号議案 役員を選任
- 4) 第4号議案 De Paepe-Willems 賞受賞若手技術者の会費の特例

3. 報告会

- 1) マルセイユ AGA の概要；須野原 豊 (PIANC-Japan 会長)
- 2) De Paepe-Willems 賞受賞報告；松下 紘資 (日建工学(株))
- 3) 国際協力委員会 (CoCom) 報告；大内 久夫 (日建工学(株) 顧問)
- 4) 海港委員会 (MarCom) 報告；樋口 嘉章 ((株)オリエンタルコンサルタンツ理事)
- 5) 環境委員会 (EnviCom) 報告；中村 由行 ((独)港湾空港技術研究所 研究主監)



総会



懇親会

3. De Paepe-Willems 賞論文応募の案内

事務局

我が国若手技術者（40歳以下）の De Paepe-Willems 賞の受賞は現在までありません。その応募要領は下記のとおりです。是非、我が国からも受賞していただきたく、会員の皆様の応募を期待しています。なお、2012年には我が国で初めて松下紘資氏（日建工学（株））が受賞されました。

PIANC De Paepe-Willems Award 応募要領

2012.6（PIANC Regulation 抜粋）

1. 目的

40歳以下の若手技術者（Young Professional（YP））が PIANC に技術論文を出すことを奨励する。

2. 論文の対象

論文は PIANC の活動分野のものを対象とし、オリジナルで実用的な技術内容であること。

3. 論文審査

- ・執行委員会（ExCom）が4人の審査員を指名する。
- ・議長は ExCom メンバーとし、他の審査員は専門家とする。
- ・論文は毎年8月31日までに提出すること。

4. 審査基準

1) 技術専門家にとって興味のあるテーマであること。

- ・テーマが如何に時宜を得たものであるか？
- ・結論がどの程度他の同様の問題に適用できるか？
- ・研究から得られた教訓が明確になっているか？

2) 論文が実務上、どの程度貢献しているか？

- ・研究の成果がどの程度先端的なものであるか？
- ・実験的分析や現場から得られた結果がどの程度再現性のあるものか？

3) テーマのオリジナリティー

・執筆者の視点が論文テーマと同種の既存の論文と比較して、どの程度独自性のあるものか？

- ・論文が現場適応性についてどの程度論じているか？

4) 論文がどの程度論理的で、簡便で、理解しやすいか？

- ・論文がどの程度文法的に正しく、技術的に書かれているか？
- ・論文が冗長でないか？
- ・論文がステップごとにどの程度論理的に完結したものになっているか？

5. 賞の内容

- ・賞金 5,000 ユーロと 5 年間にわたる会費の免除
- ・年次総会 (AGA) において賞が授与される。共同執筆の場合は、主執筆者が受賞する。
- ・受賞者は AGA に招待され、AGA で論文を発表する。
- ・受賞論文は PIANC 機関誌あるいは Yearbook に掲載される。

6. 応募の条件

1) 応募者

- ・論文提出の年の 12 月 31 日現在で 40 歳以下であること。
- ・8 月 31 日までに所定の様式を添付して論文を提出すること。
- ・論文執筆者あるいは共同執筆の主執筆者であること。

2) 提出論文

- ・図などを除いて 8,000 語以内であること。
- ・20 ページを超えないこと。
- ・“Guideline to the Authors”に従い、要約を含めて英文で提出すること。

4. Working with Nature Award について

PIANC では Working with Nature（自然との共生）のコンセプトの下、このコンセプトに相応しいプロジェクトを表彰する制度を作っています。その制度の概要は添付の様なものですので、会員の皆様におかれましても、このコンセプトに相応しいプロジェクトのご推薦をお願い申し上げます。

Working with Nature Award について

EnviCom 日本委員 港湾空港技術研究所 中村由行

1. Working with Nature とは？

PIANC 全体の環境への取組のスタンスを示す position paper

EnviCom が原案を作成し、ExCom で承認。2010 年 PIANC_Japan 総会でも内容紹介。

2011 年に改訂し、その日本語訳は中村が担当（PIANC ホームページに掲載）

www.pianc.org/workingwithnature.php

主要な考え方

- 1) プロジェクト計画段階からの対象水域の環境特性の把握
- 2) プロジェクト関係機関・団体の計画段階からの参画による win-win な解決
- 3) プロジェクトの目的の達成と環境保全の両立を目指した計画の推進

2. Award のねらいと手順

Working with Nature の考え方を活かした港湾関連のインフラ整備プロジェクト等に対してそれを顕彰し、Working with Nature の理念の普及を図る。

手順：PIANC WwN データベースへのプロジェクト応募（内部のみ閲覧）

→審査委員会による審議（6 か月おき？にメール審議）

→WwN の理念に沿うプロジェクトの認証 Label of Recognition

→WwN のオープンサイトへの掲載

→認証されたプロジェクトの中から、2 年または 4 年おきに Award（3 件程度）選定

→Award winner による PIANC Congress での発表